

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

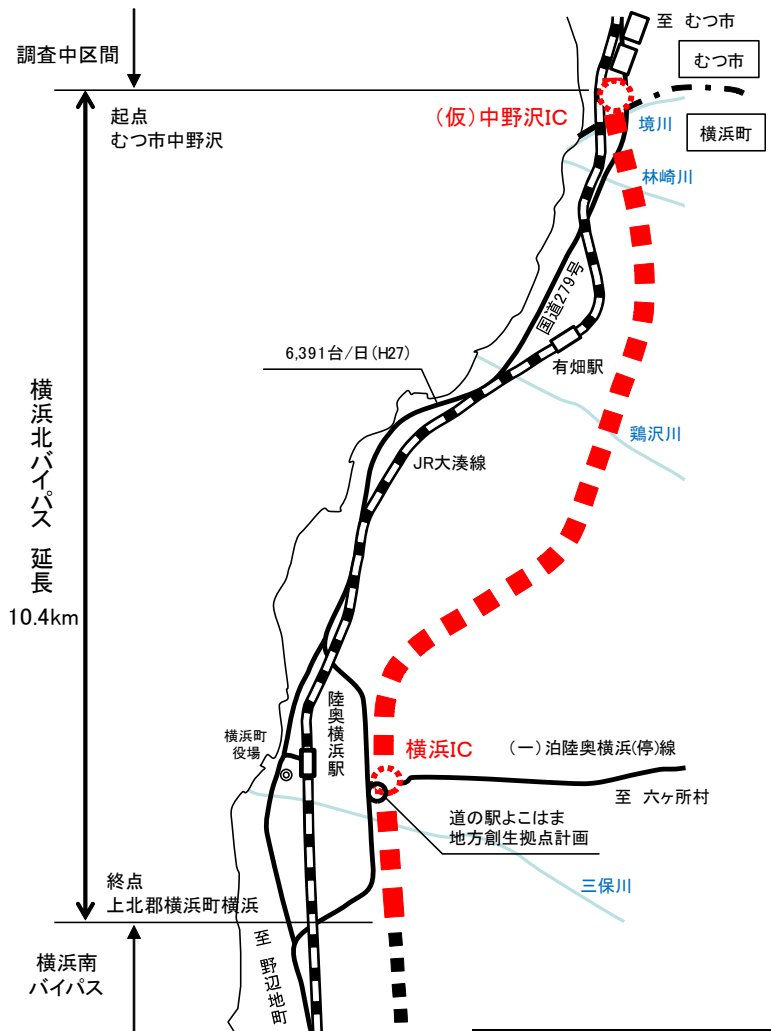
担当課長名：前佛 和秀

事業名	地域高規格道路 <small>しもきたはんとう</small> 下北半島縦貫道路 一般国道279号 <small>よこはまきた</small> 横浜北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	青森県
起終点	自：青森県むつ市中野沢 <small>なかのさわ</small> 至：青森県上北郡横浜町横浜 <small>かみきた よこはままちよこはま</small>	延長	10.4km		
事業概要					
下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市むつ市と東北縦貫自動車道八戸線を結び、下北・南部・青森地方生活圏の地域間交流の促進、下北地域の産業等の発展を支援する延長約68kmの地域高規格道路であり、横浜北バイパスは、下北半島縦貫道路の一部を構成する延長10.4kmの自動車専用道路である。					
H28年度事業化	H28年度都市計画決定	H29年度用地着手	H30年度工事着手		
全体事業費	約196億円	事業進捗率	約27%	供用済延長	— km
計画交通量	9,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年 令和2年	
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)		
	1.7	138/172億円	287/287億円		
	(残事業) 2.1	事業費：128/162億円 維持管理費：9.6/9.6億円	走行時間短縮便益：237/237億円 走行経費減少便益：41/41億円 交通事故減少便益：9.2/9.2億円		
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.5~1.8(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.9~2.3(交通量±10%)					
事業費：B/C=1.5~1.9(事業費±10%) 事業費：B/C=1.9~2.3(事業費±10%)					
事業期間：B/C=1.5~1.9(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.9~2.3(事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 豪雪等の自然災害等により通行止めとなる脆弱性を有する国道279号の代替路が形成され、第1次緊急輸送道路としての機能強化が図られる。 第三次救急医療施設（青森県立中央病院）への搬送時間短縮により、下北地域の救急医療体制の強化が図られる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> 国道279号沿線首長、議会議長、商工団体等により構成される「下北半島振興促進連絡協議会」（会長：むつ市長）及び「下北半島縦貫道路早期実現促進協議会」（会長：むつ商工会議所会頭）から、当該バイパスを含む下北半島縦貫道路の早期全線整備が求められている。 					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> 下北半島縦貫道路 横浜北バイパス（延長10.4km）が平成28年4月に新規事業化 下北半島縦貫道路 吹越バイパス（延長5.8km）が平成29年11月に供用開始 下北半島縦貫道路 むつ南バイパス（延長8.7km）の一部（延長1.3km）が令和元年12月に供用開始 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約6%、事業進捗率約27%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<ul style="list-style-type: none"> 用地取得に際して権利者調査を実施したところ、共有地の存在が明らかになった。今後、事業認可手続きを進め、早期の供用を目指していく。 					
施設の構造や工法の変更等					
他工区との工程調整による建設発生土の有効利用や、新技術・新工法を積極的に活用すること等により、コスト縮減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



下北半島縦貫道路 延長約 68km



凡例	
事業中	■■■■■■■■
事業中(他工区)	■■■■■■■■
調査中	□□□□

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。